

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 緑が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 59人 |
| ② 算数 | 59人 |

5 留意事項

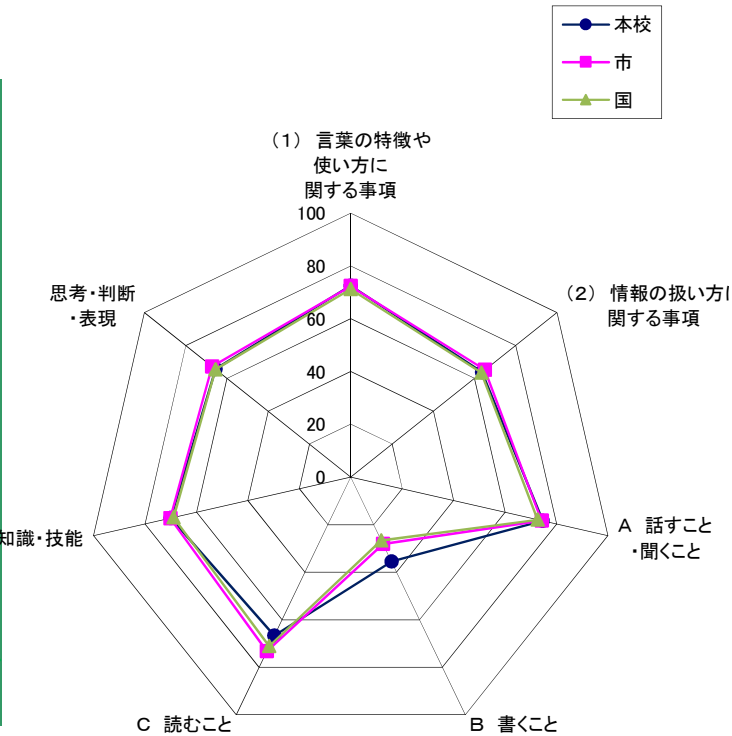
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立緑が丘小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	72.5	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	63.6	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	74.6	74.2	72.6
	B 書くこと	35.6	28.2	26.7
	C 読むこと	66.7	73.3	71.2
観点	知識・技能	70.0	70.2	68.9
	思考・判断・表現	65.6	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

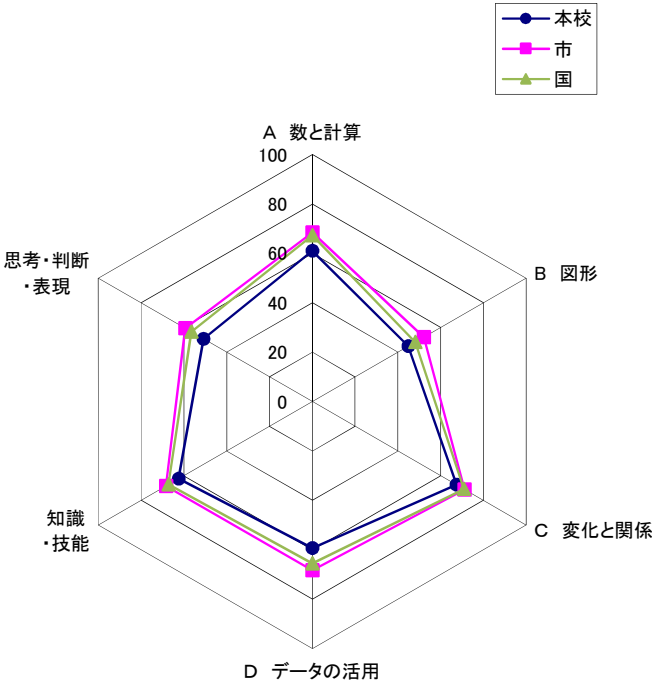
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、72.5%で、市の平均を0.3ポイント上回った。 ○漢字を文の中で正しく使うことができおり、日常よく使われる敬語も正しく理解できている。 ●文章の種類とその特徴について理解しているかどうかについて課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きについては、文字により習得に差があるため、引き続き漢字スキルや1人1台端末を活用した学習を行ったうえで、既習事項について日頃から使う指導を続けていく。 ・文章の内容を的確に捉えた上で、内容を比較しながら考えていく必要があることから、日頃からいろいろな文章に慣れ親しみ、文の成り立ちについて理解させていく必要がある。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、63.6%で、市の平均を1.4ポイント下回った。 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができている。 ●原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかについて課題が見られる。	・原因と結果などの情報と情報の関係についての理解は、読解力と関連があるため、引き続き必読図書や読書週間、朝の読書の時間を用いて、読書の時間を確保する必要がある。 ・情報同士の関連付けや語句と語句との関係の表し方については、複数の情報の取扱いであるので、教科書の関連語句を線で繋いだり、1人1台端末を活用して、集めた情報を整理させたりなど情報整理の機会を十分に設ける。その際、子どもたちに目的意識をもたせるよう単元計画を工夫する。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、74.6%で、市の平均を0.4ポイント上回った。 ○目的や意図に応じ、話の内容を捉え、自分の考えをまとめることができている。 ●必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることに課題が見られる。	・話し合い活動やみんなの前で発表する活動を通して、「話す力」が徐々に身に付いてきている。今後も、朝の会の時間にスピーチを取り入れたり、ペアやグループ活動を積極的に行ったりするなど、話す目的に沿った話し方の指導を継続的に行うようにする。 ・「聞くこと」については、話し手が伝えたいことを意識して聞く習慣をつけさせていく。また、相手の意図を考えながら聞き、メ
B 書くこと	平均正答率は、35.6%で、市の平均を7.4ポイント上回った。 ○文章を読み、自分の意見を交えて答えることができている。	・「書く」単元の学習で学んだことを、各教科の調べ学習などで生かし、自分の課題について調べ、意見や報告などを書いたり編集したりする活動を取り入れていく。 ・文章を書く活動では、型や手本となるものを示し、書く手順や表現方法を真似ることから取り組むようにさせ、構成段階で、文章の中心を意識して修正を加えながら、学習を進めさせるよう指導していく。
C 読むこと	平均正答率は、66.7%で、市の平均を6.6ポイント下回った。 ○資料を読んで分かったことを分類して要旨をとらえることはできている。 ●説明文で複数の資料をもとに、必要な情報を見付け、内容を要約することについて課題が見られる。	・二つの資料の情報を関連させて考える場合は、文章の中心となる語を枠で囲んだり、色分けしたりしながら、複数の資料を関係付けて読めるように指導していく。その際、自分の考えをまとめて記述する場を設定する。 ・日頃から、読書活動に親しませ、読む楽しさを味わわせる。

宇都宮市立緑が丘小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	61.0	68.4	67.3
	B 図形	44.9	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	67.4	71.2	70.9
	D データの活用	59.3	68.3	65.5
観点	知識・技能	62.5	68.4	67.2
	思考・判断・表現	50.8	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は61.0%で、宇都宮市の平均を7.4ポイント下回った。 ○一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができている。 ●加法と乗法の混合した整数の計算や分配法則を用いて答えを求めることに課題が見られる。 ●()を用いた式や加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることに課題が見られる。	・基本的な四則計算の定着に向けた練習を継続する。 ・日常生活で活用する場面と関連付けて、基本的な計算能力を形成していくために、習熟度別学習を生かして、個に応じた指導の充実を図る。
B 図形	平均正答率は44.9%で、宇都宮市の平均を7.3ポイント下回った。 ○台形の意味や性質、構成の仕方についての理解ができている。 ●正三角形の作図について、正三角形の構成は理解しているが、それを活用することに課題が見られる。 ●高さが等しい三角形の底面と面積の関係について、解答の理由を記述することに対し課題が見られる。	・今後は思考力を伸ばせるような発展的な課題に取り組む機会を増やす。 ・解答をする際に、自分の考えを文章で表現できるように習熟度別学習での発問の工夫や個に応じた指導の充実を図る。
C 変化と関係	平均正答率は67.4%で、宇都宮市の平均を3.8ポイント下回った。 ○いすの数と高さの関係が比例していない、ということ、表の数字を用いて説明することができている。 ●いす1脚あたりの重さを基に、全体の重さを求めることに課題が見られる。 ●比較量と基準量から、割合を計算することに課題が見られる。	・基礎的な割合についての学習内容を再度確認する。 ・暗記ではなく日常生活の場面に即して考えられるように、課題の提示の仕方などを工夫していく。
D データの活用	平均正答率は59.3%で、宇都宮市の平均を9ポイント下回った。 ○「以上」の意味を理解し、表から必要な数を読み取ることができている。 ●棒グラフを読み取り、見出した違いを言葉と数を用いて記述することに関して課題が見られる。 ●表から、条件に合う数を読み取ることに課題が見られる。	・基本的な表とグラフの読み取り方を再度確認する。 ・資料の見方や考え方の幅を広げるために、複数のデータを関連付けて考えさせ、対話的な活動において自分の考えを説明する力を育てるような指導を繰り返し行っていく。

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問では、児童の肯定割合が80.3%で、全国平均を11.9ポイント上回る。これは特別活動などで様々な先生と関わり、休み時間に一緒に遊んだり、話を聞く時間を確保したり、教育相談などで受けた相談に対して、児童の目線に立って受け入れられる体制を学校全体で整えてきた結果と考えられる。

今後も、児童との信頼関係を維持しながら必要に応じて声を掛けるなど、相談しやすい雰囲気づくりを続けていきたい。

○「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問では、週3回以上と答えた児童の肯定割合が84.8%で、全国平均を22.4ポイント上回っている。これは、各教科や特別活動の時間において、児童が自主的に活用する時間を確保したことが理由と考えられる。

今後も、児童の学習の習熟や調べ学習だけでなく、自分の考えをまとめたり発表し合ったりする上で効果的に活用できるように指導していきたい。

○「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」という質問では、児童の肯定割合が89.4%で、全国平均を13.7ポイント上回っている。これは、学級活動などで話し合って意思決定したことを実践させる場を意図的に設けた結果だと考えられる。

今後も、起きた問題を自分事として捉え、集団や個人の質をより向上させられるよう指導していきたい。

●「将来の夢や目標を持っていますか」という質問では、児童の肯定割合が72.7%で、全国平均を8.8ポイント下回っている。

これからは、児童の得意なことや好きなことを探す場を作っていき、キャリア教育に生かしていけるよう指導していきたい。

●「学校の授業以外に、普段1日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか」という質問で、30分以上読書している、と答えた割合が21.4%と、全国平均を15.9ポイント下回っている。

読書が習慣化していない児童がいることや、学校図書室、地域の図書館の利用に個人差がみられることから、今後は、図書室の利用や校内の必読図書読破の推奨、家庭でのインターネット等でのデジタル書籍の活用などを通して、本や文章に親しむ環境を整えていきたい。

宇都宮市立緑が丘小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎基本を定着させるための取組	・一人一人が考えたことを書いたり表現したりする力の育成を図る。 ・授業の中で必ず「めあて・まとめ・ふりかえり」を行い、授業の焦点化を図る。	・課題の解決に向けて自分で考え、自分が解決することができている児童は80.3%だった。自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の筋立てなどを工夫して表現したりしている児童は57.5%だった。
・知識・技能を活用する力を育成するための取組	・ふり返りを通して集団の学びを個の学びに返し、この学習を個の学習を深められるようにする。 ・話し合いや1人1台端末を活用し、多角的な見方ができるようにする。	・学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができた児童は72.7%だった。 ・授業で1人1台端末などを使用したと答えた児童が84.8%だった。また、1人1台端末が学習の役に立っていると実感している児童が95.5%だった。
・学ぶ意欲をもち続けるための取組	・互いに認め励まし合い、学びに向かう学級集団づくりを行う。 ・家庭学習等では、個人に適した学習を行いながら、自ら学ぶ力を育む。	・学級の友達との間で話し合う活動を通して考えを深めたり広げたりしていると回答した児童が83.3%だった。 ・家庭学習の時間は、37.9%の児童が1～2時間で、最も多かった。また、75.7%の児童が家庭学習を計画的に行っていた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・教科に関する調査から、算数において、市や県の平均よりも全体的に低い傾向が見られた。 ・国語の「読むこと」が低い傾向が見られた。	・基礎基本を定着させるための取組 ・読む力、考える力を高めるための取組	・朝の学習の時間や各単元の内容を復習する時間に、ドリルやプリント、AIドリル等を活用し、基礎基本の定着を図る。また、新しく学ぶことを、既習の学習事項と結び付けるなど、知識や技能を活用するようにさせ、考えを深める場を設けるようにする。 ・話し合いや振り返りを通して、多角的な見方や集団の学びを自分に返す学びを繰り返す、考える力を身に付けることができるようにする。 ・国語の授業で並行読書を取り入れるなど、読書の機会を確保し、読む力を身に付けることができるようにする。